

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000752		
法人名	特定非営利活動法人 仁秀会		
事業所名	グループホーム たいよう	ユニット名	一号館
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北6219-42		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一号館は10年、二号館は2年目を迎えました。入居者の方も高齢となり、体と心の健康が不安になる事も出てきました。しかし、そんな日々の中でも入居者の方達の優しさがあり、他の方に気を遣い助ける気持ちや、出来る事は自分でやろうとする行動力に、職員が学ぶ事が多いホームだと感じています。装飾品を作る人がいれば、それを見て褒める人がいる、褒める人をみて「あんたはいい事言うね」と温かな言葉を紡いでいく...。優しさのある環境で仕事出来る事に、職員は感謝しなければならぬと思います。年齢を重ねても明るく、前向きな生活を送る事は難しいかもしれませんが。生活の中に一瞬でも楽しかったと感じる出来事(笑う事、食事がおいしい、差し入れがあった、誕生日が来た、知人が来てくれた等)と一緒に楽しみ喜ぶようにしています。入居者の方が中心となり、職員は黒子に徹する事を忘れず、皆さんと楽しく元気に生活できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年2年目の2号館と10年目の1号館からなる2ユニットのホームである。自然豊かな環境の中、敷地内には居宅介護支援事業所やデイサービスも隣接しており、利用者は行事の時だけでなく日常的に行き来している。理事長や管理者を初めとした職員全員のチームワークがよく、協力体制がしっかり取られており、資格取得や研修にも積極的に参加させ、職員の資質向上に取り組んでいる。利用者一人ひとりが楽しく喜んで過ごせるように、笑顔で温かいケアが実施されている。また、身体機能の低下にも配慮して、ケアビクス体操を毎日全員で行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆さんが安心して生活が送れるような理念を作成した。職員が意識して取り組んでいるか、会議の時に評価をしていく必要性を感じている。	1号館の開設当初、職員全員で考えた「たいようのような明るく暖かい態度で接します」など4項目の理念がある。職員の目に付きやすい場所に掲示したり、職員会議等で共有しているが、見直しは行っていない。	理念について、見直しも含め今いちど全職員で話し合い、新しい職員の意見や地域密着型のホームであることが反映された理念になることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が遊びに来られる事は増えている。以前はマラソン大会の見学に行ったり、皆さんで夕食等にも出掛けていたが、最近では出掛ける機会がなくなっている。	理事長や職員がホームのすぐ近くに住んでいることもあり、近所の方が気軽に野菜を届けて下さるなど日常的な付き合いがある。また、ボランティアも年々増えている。自治会にも加入している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム側から地域の人達に、認知症についての理解を示していく機会はありません。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の活動や入居者の方の状況を報告している。会議の議題は毎回同じ内容になっているので、会議の在り方を考えている。評価や助言は職員会議等で報告し、サービスの質を上げるために活かすようにしている。	会議は年4回開催している。メンバーには町会議員の出席もあり、利用者の状況や活動内容を報告しているが、議題が毎回同じになっているため、模索中である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者がホームに来たり、電話連絡をする等のやりとりは行っている。運営推進会議には参加をいただいている。	町の担当者には、運営推進会議のメンバーとしての出席だけでなく、時々ホームに足を運んでもらっている。役場主催の会議や研修会にも積極的に参加して、連携を深めるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのファイルを作成している。どんな行為が拘束になるのか、正しく理解、認識するよう話をしている。	職員会議やミーティングで取りあげ、虐待の芽リストで自己チェックをしている。玄関の施錠は夜のみで、拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、職員の態度や言葉掛けが虐待につながる事の話をしている。虐待の芽リストを使い、自己チェックを行い、職員の言動を振り返るようにしている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、活用する機会はない。必要な方達の為に活用していく必要がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解除時はご家族にきちんと説明し、承諾を得られるよう時間をかけて説明を行っている。不明な点はないか、確認して納得いただけるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を実施し、意見や要望を伺うようにしたが、発言する人がいなかった。個別に要望等を聞く機会を設ける必要があった。今後、アンケートの実施も考えたい。	通常の来訪時や3か月に1回くらいあるホームの行事開催時に、ほとんどの家族が来訪されるので、意見や要望を聞くようにしている。要望に応じて、食料品の買い物に利用者と一緒にいくようになった。家族会は、年に1回開催している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見を聞くようにしている。職員は、直接施設長に意見を言う事ができ、施設長も直接の声に対して話を聞き対応するようにしている。	日常的に理事長や管理者と職員の間には意見の出しやすい関係が出来ており、会議を待つまでもないことが多い。利用者のための手すりの設置など、意見が反映されている。現在、台所の高さの見直しも検討されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者が、機会があるごとに各職員の状況を話し合うようにしている。実績に応じた昇給や、資格・職種に応じた手当、希望休や有休を取得できるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議を活かし、認知症の勉強会等を行っている。法人外では、グループホーム連絡協議会や色々な分野の研修に全員が参加できるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修や懇親会に積極的に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉をしっかり聞いて気持ちを知る事で、現在の状況を把握するようにしている。こちらから一方的に話をするのではなく、安心に繋がる時間になるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の現在置かれている状況や思いを知るようにしている。時間をかけて話を伺うよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞いて、何が必要な支援なのか検討するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする人として、できる事は自分で難しい所は手助けする、職員も助けていただき支え合う関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力があるからこそ職員の支援に厚みがでて、本人の暮らしを支えていける旨の話を常に家族の方にはしている。家族の存在が本人には一番である事も伝えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通っていた商店やスーパーに買い物に出掛ける、行きつけの美容室に行くなど、家族の方にも協力していただいている。近くの神社の祭りや敬老会に参加する方もいる。	家族や親戚の来訪はもとより、スーパーなどに買い物に出かけた際には、知人・友人にホームへの来訪をお願いしている。隣接のデイサービスに来ている友人との交流もある。家族の協力でなじみの場所に行くこともある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の入居者の方の会話や行動、表情等を通して関係の把握に努めている。食事の進まない方に「おいしいよ、食べないね」、帰りたいと言う方には「皆泊まるよ」と優しく声を掛ける場面が見られる。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り先の関係者に対しては、本人の状況をまとめた情報提供書を渡すようにしている。ご家族には、いつでも相談できる事をお話している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に希望等を聞くようにしている。毎日の会話から興味や関心事を知り、本人の思いを知るように努めている。本人が言った言葉を介護記録に書きとめたり、会議等で話し合う事もしている。		全職員が、介護記録に利用者一人ひとりの言葉を書き留めるようにしている。意思疎通の難しい人は体調にも気をつけて、やりとりを繰り返し表情を読み取るようにしている。一部センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)も使っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、今までの暮らし方を聞いている。携わった仕事や日課、趣味や習い事等を知り、ホーム生活に活かせるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり一日の言動を見て、出来る事や分かる事に気付いていけるよう努めている。できる事をいつまでも継続していくように、分からない事に対しては一緒に考え、取り組んでいける支援を心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の会話や入居者同士の会話を聞いて、一人ひとりの今の思いを知るようにしている。職員は言葉を書きとめたり、会議で話し合っている。家族の方には要望等を聞いて、計画に取り入れるようにしている。		利用者の日々の会話を注意深く聞き、記録として書き留め計画に反映させている。短期介護計画は3か月に1回見直しているが、必要があれば随時書き換え、状況に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事は介護記録等を書くようにしている。職員が情報をしっかり把握できるように、ミーティング等で話し合う時間を設けている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務だけでなく、病院受診や個別の外出等に携われるよう配置している日もある。限られた職員体制なので、十分な対応まではいかないが、協力できる部分は行うよう努めている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に積極的に取り組めていないところがある。地域ボランティアの方の来訪はあるが、こちらから働きかける事は少ない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医からは月に一度の往診を受けている。状態に変化があれば、すぐに報告し受診したり、検査が必要になれば家族の希望する病院で検査を受けられるように配慮していただいている。	利用者および家族が希望する掛かりつけ医であるが、全利用者が協力医となっている。月に1度の往診や受診など、医師、家族、ホームの連携で適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人のいつもの状態(血圧、体温、食事量、排泄内容等)を職員全員が把握し、変化があれば看護師に報告している。病院へ速やかに連絡し、指示を仰ぐようにしている。重篤化しないよう早目の対応ができるよう努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報提供書を作成している。面会時には状態を見たり、早期退院に向けて医師や看護師、ワーカー等と話し合う機会を設けている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化があった時に話し合いをしていく事が多い。今後考えられる状況によっては家族の協力が必要であること、ホームでの生活が困難になる場合は次の移り先を考えていく事、ホーム側のできる事と出来ない事を説明している。看取りは行わない方針である。	4年前に1度看取りを経験しているが、基本的には看取りは行わない方針である。重度化した場合には、ホームとして出来ること、出来ないこと、家族の協力、医師との連携について段階的に十分に話し合い、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変時等に適切な処置ができるのか不安はある。救急法やAEDの使い方の訓練も予定している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の消防団が来てホームの中を見学。避難経路の確認や入居者の状況等を伝え、協力体制を整える。昼間想定避難訓練、消火訓練は実施。3月に夜間想定避難訓練を行う予定である。	年2回の訓練を実施している。3月には消防署、消防団の参加を得た訓練を予定している。自動通報装置や備蓄も整っている。	自治会や近隣の住民、消防団の参加、協力を得た防災訓練について更に積極的に取り組み、あらゆる災害を想定した自主訓練や避難所、避難マップの確認など、自助努力を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の態度、言葉掛け一つで相手の心を傷つけることを常に意識するように話をしている。入居者の方を敬う気持ちを持ち、対応するように努めている。		接遇マナーに関するチェック表が2枚あり、会議の時などに自己評価している。管理者は、職員の言葉遣いなど気になることはそのつど話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを言える方、言いたいけど遠慮している方、言葉にして言えない方等がいるので、各々に合わせての働きかけの難しさを感じる。何でも言えるような関係作りから始めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きる時間や寝る時間等、その人に合わせるようにしている。遅れて朝食を摂ったり、居室で好きな時間に過ごせるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選ぶ、鏡を見て髪を整える、外出する時は外出着に着替えるなど、出来る方には自分で行っていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から調理まで一緒に行うようにしている。野菜の皮むきや味付け等、一つの工程に携わったり、難しい方は調理の工程を見て楽しんでもらえるような支援を心掛けている。		利用者は力量に応じて買い物、料理の手伝い、配ぜん・下ぜん、テーブルふきなどに参加してもらい、持てる力を発揮してもらっている。職員も利用者と同じ物を介助や会話をしながら皆で楽しく食べられるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分量を把握している。水分の少ない方には好みの飲料を、食事量の少ない方には補食等を用意し、無理なく食べられるようにしている。体重の増減やむくみ等がないか確認している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいを行うようにしている。口の中の状態を観察すると同時に、入れ歯の不具合がないか確認している。			

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハビリパンツから布パンツにしてトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。排泄時間や内容を記録し、パターンを把握、失敗なく排泄できるようにしている。	排せつチェック表を利用した排せつパターンの把握や時間を見て誘導するなど、職員はトイレで気持ちよく排せつできるように支援している。日中は、利用者全員がトイレでの排せつを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後にはトイレに座り、自然排便を促すようにしている。軽体操や食材の工夫等しているが、薬に頼っている事が多い。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お湯の温度を調整したり、浴槽に入れない方はリフトを使い入っていただいている。嫌いな方には清拭や足浴、更衣を促し、次の入浴ができるようにしている。時間帯は職員の都合で昼間と決めている。	入浴の時間帯は職員の多い昼間に設定されているが、利用者の希望があれば毎日入ることができる。リフトもあり、利用者に応じた支援を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に居室で寝たり、和室でゆっくり過ごせるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成している。状態に変化があれば薬も変更があるので、その都度職員で確認するようにしている。副作用についてどんな症状になるのか話をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事、出来る事があるとそれが自分の役割となり、生き生きとした表情が見られる。歌を歌う、料理をする、絵を書くなど一人ひとりが楽しみを持ち、生活できるように努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は少ないが、買い物や花見、ぶどう狩り等、四季を感じる外出は行ってきた。家族に協力していただき、墓参りや美容室でのカット、その他の外出をしている。	隣接している1、2号館やデイサービスとの行き来は日常的にできている。また、体調や気分によってはウッドデッキで外気浴も可能である。買い物や四季折々の外出を楽しんだり、家族の協力を得た外出もある。		

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している方はいるが、実際使うことはない。計画的にお金が使えない方への支援ができていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたり、電話があったら取り次ぎ、ゆっくり話ができるように支援している。手紙を書いて近況を報告する方もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度を保つように、四季に応じて対応している。四季の花々を飾ったり、入居者の方手作りの装飾品を飾る等もしている。	畳敷きの居間や居心地良く過ごせるソファの位置などを工夫している。白い迷い猫を飼っており、利用者のマスコットになっている。季節の花やおひな様も飾り、居心地よい空間になるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室では少人数で過ごせるように、テレビやソファを置いている。しかし、リビングで過ごす時間が増えている。一人で過ごせる場所は居室だけである。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスやベッドを置いている。家族の写真や手紙等も飾っている。	畳敷きに布団の居室、ベッドに畳、フローリングにベッドなど、利用者の好みでそれぞれに安心して居心地よく生活できるように工夫している。壁にジャニーズ系人気グループの特大大ポスターが貼ってあったり、写真や手紙なども飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒が増えている方には新たに手すりを設置し、自分の足で歩けるようにした。寝具はベッドや布団と各々であり、フローリングには畳をひいて安全に生活できるようにしている。			